

会報 第175号
発行日 平成31年4月1日
発行・編集 V・G 槻輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin



わがまち紹介

薬のまち

道修町を歩こう！
大阪中央区道修町
道修町ミュージアム
ストリート

3月14日春風の時期に、大阪メトロ北浜駅南改札口に全員集合し道修町に向かいました。まず目につくのが、黒い板壁の重要文化財の旧小西家住宅です。

道修町に入っても、少彦名神社(すくなひこなじんじや)(神農さん)の入り口を見失うくらい狭い神社の入り口です。くすりの道修町資料館は社務所ビルの3階にあります。ビデオで少彦名神社や薬のまち(道修町)の歴史等を学び、道修町ミュージアムストリートを散策し、田辺三菱製薬史料館で広報課資料館担当の川並さんに館内の説明をして頂きました。

道修町(どしやうまち)

道修町は江戸時代から薬種問屋が軒を連ね、現在も多くの製薬会社の本支店がある「くすりのまち」として知られています。

この道修町にある、「くすりの道修町資料館」は、日本の薬業とともに歩んできた道修町の歴史、当時の文化・生活、今に至る医薬品の話など「道修町」と「くすり」に関するさまざまな情報が所蔵する貴重な資料や写真、道具類などが展示公開されています。



道修町資料館のビデオで道修町 神農さん・薬の歴史を学ぶ

道修町の歴史

大阪の難読地名のひとつである道修町(どしやうまち)は、どうして「くすりの町」とよばれるようになったのでしょうか。

道修町を含めた船場

地域は、豊臣秀吉が大坂城の三の丸を築城する際、そこに住んでいた町人や寺院を強制的に移し新しく城下町として開発されたときから始まります。

道修町がくすりの町と言われる様になったきっかけは、寛永年間(1624-1685)に堺の商人小西吉右衛門が道修町一丁目に薬種屋を開いたこととされています。

明治時代になると、株仲間が解散となり、営業の自由化と共に誰もが組合に加入して自由に商売が出来るようになりまし。しかし、悪質な流通業者がいて粗悪品を売りつけたりしても罰する規定はありませんでした。そこで、道修町の業者達は、道修町ブランドに対する信用の為に団結して事業を展開していきまし。

積極的に洋薬を取り入れ、自前で品質検査を行う『大阪薬品試験会社』を設立し、官立の試験所に優るとも劣らない信用を獲得

しました。

また、有力薬業者達により製薬会社を立ち上げたり、洋薬に対応するため開設した『薬舗夜学校』は、現在大阪大学薬学部や大阪薬科大学に発展しました。

そこには、少彦名神社の薬の神様に対する信仰をもとにつながり崇敬団体薬祖講が結成されたことにも深い関係がありました。

少彦名神社 (神農さん)

大阪道修町は、豊臣時代頃から薬種取引の場として、薬種業者が集まるようになっていきました。江戸時代になると、幕府は道修町の薬種屋124軒を株仲間として、唐薬種や和薬種の適正検査をし、全国へ売りさばく特権を与えました。

薬は、人命に関わるものであり、その吟味は大変難しいものがあります。そこで、神のご加護によって職務を正しく遂行しようと、安永9(1780)年京都の五條天神より少彦名命を仲間の寄合所にお

招きし、神農炎帝王とともにお祀りしたのが始まりです。

田辺三菱製薬史料館

製薬の創業は、初代田邊屋五兵衛が、大阪土佐堀田邊屋橋(現・常安橋)南詰で、合業「田邊屋振出薬」の製造販売を家業として、店舗を開いたことに始まります。三百有余年医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献してきました。



田辺三菱製薬史料館前にて

「田辺三菱製薬史料館」には、常に時代に先駆けて社会の役に立つ新薬を提供し続けてきた企業活動と、幾多の困難を乗り越えてきたフロンティア精神の歴史的資料を一堂に集めていました。

詳細は、VG槻輪のHPをご覧ください。

2019年4月度行事予定

VG槻輪年次総会
総会后親睦会を開催

月 日：2019年4月18日(木) 10:00 から
開 催：2019年度VG槻輪総会
場 所：クロスパル高槻(総合市民交流センター)
その他：1) 詳細は別途配布資料を参照下さい。
2) 総会后別場所で親睦会を開催します。

2019年5月度行事予定

日本茶 800年の歴史散歩のまち
上津屋橋(流れ橋)のあるまち

月 日：2019年5月16日(木)
集 合：京阪八幡駅改札出口集合
内 容：上津屋橋・四季彩館・伊佐家住宅他見学
その他：1) 雨天決行
2) 詳細は別途配布資料をご参照下さい。